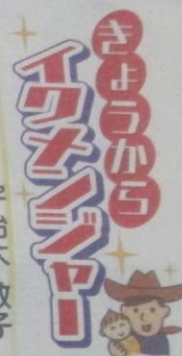


# 「きょうからイクメンジャー」連載コラム 10

（最終回）



宇治木 敏子

子どもが目覚めた時、析を提唱したE・バーンは「人は何のために生きるのか、それはストロークを得るためだ」と語っています。ストロークは「人の存在を認める行為」

を意味し、体に触れる「身体的（タッチ）」と、表情や言語による「精神的」に分けられます。さらにそれぞれ肯定的、否定的なストロークがあります。

乳幼児期にどんなストロークを受け、それを子ども自身がどう受け取ったのか。その積み重ねによって子どもの性格、コミュニケーションの基盤「無条件の肯定的なストローク」です。

## 肯定的ストローク

## 子どもの生きる希望に

「ば」と残念そうな顔…。相手の目や表情から、自分を受け入れてくれているか否かなどを瞬時に確認しているはず。それに気付けばあなたも、赤ちゃんが安心してできるアイコンタクトと笑顔で接しているかどうかを考えられるようになるでしょう。

カナタ出身の精神科医で、1957年に交流分



イラスト・にしもとおさむ

それがシャワーのように子どもたちに降り注ぎ、心のエネルギー源となります。シャワーを掛けるパパの心も満たされていくことに気付くでしょう。こうした体験が、困難を乗り越える「生きる希望」となり、子どもの一生を通して「貴重な宝物」となるのです。

（NPO法人日本タッチコミュニケーション協会 理事長＝呉市）  
＝おわり